



諫早湾干拓地で環境保全型農業に取り組む

ー長崎県農業振興公社が農地リースー

諫早湾干拓地に41経営体が入植

諫早湾干拓は平成19年11月に事業完工式を行い、平成20年4月から入植者41経営体（法人16、個人25）の営農が開始された。干拓の総事業費は2533億円である。

この干拓事業は昭和27年に食糧増産を目的とした「大長崎干拓構想」に始まる。その後、諫早湾の約1万ヘクタールを閉め切り、約



6700ヘクタールの干拓地を造成する「長崎干拓事業」、水資源開発などを目的とする「長崎南部地域総合開発事業」と衣替えして推進されたが、漁業者との補償交渉などで難航した。昭和61年、規模を縮小し、防災機能の強化と優良農地の確保をねらいとする「諫早湾干拓事業」として着工した。平成9年4月に潮受堤防が閉め切られ、有明海のノリ不作問題等々で、工事差し止めの裁判ともなり、完工までの間には工事の中断・再開が繰り返された。

平成19年7月に国から長崎県農業振興公社へ干拓地の配分手続きが完了し、8月には営農入植者の公募が行われた。12月に1・5倍の希望者の中から41経営体の入植者が決定された。このうち16の農業生産法人は、建設、港湾、建設機械、水産加工・販売会社など他業種からの新規参入であった。法人の経営規模は4ヘクタールから61

ヘクタール、平均30ヘクタールの規模である。個別経営は3ヘクタールから12ヘクタールまで、平均7ヘクタールの規模となっている。入植者のうち最大規模の酪農経営農事組合（法人）は、搾乳牛350頭規模で、畜舎は環境への配慮もあつて干拓地より離れた場所にあり、干拓地は粗飼料の生産基地として

配分された農地は全体で672ヘクタール（中央干拓地581ヘクタール、小江干拓地91ヘクタール）、潮受堤防と干拓地の間に設けられた調整池（愛称「いさはや新池」）は2600ヘクタールである。全長7キロの潮受堤防と調整池は高潮や洪水の被害を防止するとともに、干拓地と背後地の排水改良の役割を担い、潮受堤防上の道路は雲仙・島原と諫早市東部を短時間で結ぶ道路（愛称「雲仙多良シーライン」）としても利用されている。

有明海は干満の差が大きく、この地域では満潮時に潮位は標高から2・5メートル上昇する。江

水門の開放を継続するよう命じた。国は直ちに控訴し、開門調査に向けた環境アセスメントを実施する意向を示している。

干拓地入植者の営農

諫早湾干拓地の入植者は長崎県農業振興公社が公募し、営農意欲や生産物の販路の確保などについて審査を行い、41経営体（法人16、個人25）の入植を決定した。

農地は長崎県農業振興公社が国から一括配分を受けた。これに伴う地元負担金51億円は、公庫資金、土地改良資金、長崎県費などを利用して確保した。現在の計画では、全体の償還に70年ほどかかる見込みである。入植者へは農業経営基盤強化促進法に基づき、諫早市が定めた農用地利用集積計画により利用権を設定して県公社が貸し付け（リース方式）している。利用権設定期間は5年間、1年間の貸付料は10ヘクタール当たり1・7万円（1・2万円の5段階で、平均1・5万円である。農地の利用に当たっては、飼料作物、露地野菜、施設園芸、有機野菜の生産ゾーンを設定している。なお、

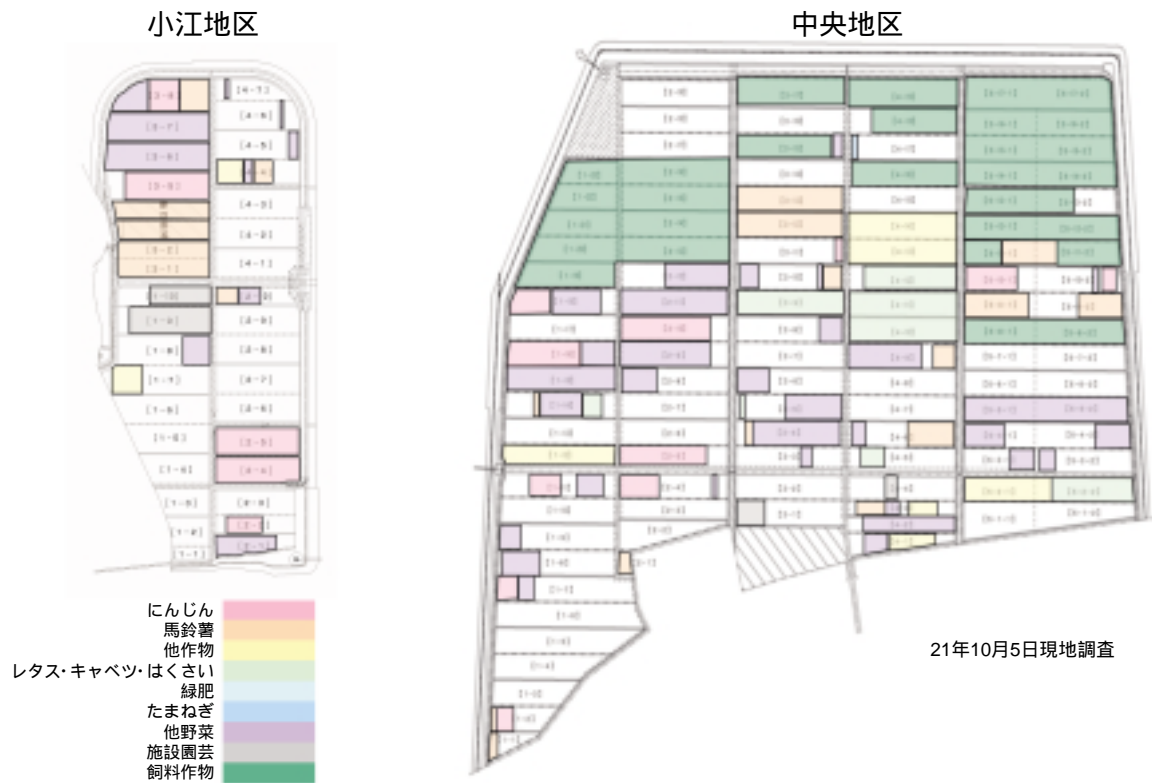
戸時代以前から干潟の干拓が続けられてきた地域で、農地や宅地は低平地であり、地形は山岳に囲まれ上昇気流が発達しやすいことから豪雨になりやすい。潮受堤防による閉め切り前は大雨や台風の時などは浸水被害や高潮による塩害に悩まされる常習災害地であった。とくに、昭和32年の諫早大水害は死者・行方不明者630人を出し、家屋や田畑にも大きな被害をもたらした。この大水害は干拓事業を進める契機ともなった。潮受堤防は、堤防外の水位が調整池の水位を下回っている時、排水門を開けて排水し、調整池の水位を標高マイナス1メートルに低く保つことによつて、排水を促進し浸水被害を防止している。しかしながら、潮受堤防は有明海の漁業や生態環境に影響を及ぼすものとして提訴され、佐賀地裁は3年以内に防災上やむをえない場合を除いて5年間にわたつて排

貸付料は、5年後の更新時には平均2万円とされる予定である。1年間のリース料は全体で約1億円となり、金融機関等からの借入金の返済に充当される。

農地は中央干拓地の区画が6ヘクタール（600ヘクタール×100ヘクタール）を基本とし、長辺方向に耕作道路および末端排水路を配置している。小江干拓地は3ヘクタール（300ヘクタール×100ヘクタール）の区画となっている。各ほ場は用排水施設が完備され、用水は調整池からパイプラインを通して取水し、各ほ場に設置された給水栓にスプリンクラーなどの散水施設を接続する。排水は各ほ場の深さ80センチのところに10センチ間隔で暗きょ排水が設置されているほか、縦横に配置された排水路を通じて、ほ場の排水を促進している。

長崎県では干拓地の営農を支援するため平成12年から営農試験を実施するとともに、20年4月には干拓地内に営農支援センターを設置して、さまざまな営農改善策に取り組んでいる。営農の基本的な考え方は、土地利用型大規模野菜経営と企業的な施設園芸および低コスト粗飼料生産による畜産経営、

諫早湾干拓農地作付状況図(10月)



耕種部門と畜産部門の連携による地力維持、輪作体系による連作障害の回避など、環境保全型農業の推進、法人経営の導入と担い手の育成による安定的な農業経営の確立、などである。

干拓地での営農は環境への配慮を意識した環境保全型農業を目指しており、営農開始5年以内に長崎県特別栽培農産物、あるいは有機栽培農産物の認証を取得することとしている。また、



榊杉山ファーム社長の松山弘保さん◎と専務の松山哲治さん

エコファーマーとして、土づくりに留意し、化学肥料や農薬の使用を減らす環境にやさしい農業に取り組んでいる。

営農初年目の20年度の作付け延べ面積は1435ヘクタールに達した。営農者の強い営農意欲が表れている。作物別には野菜532ヘクタール、飼料作物491ヘクタール、緑肥262ヘクタール、その他の作物142ヘクタール、施設園芸8ヘクタールであった。野菜では、ばれいしょ、たまねぎ、レタス、にんじんなどの作付けが多い。また、20年の耕地利用率は165%に達した。これは飼料作物の年2作体系や環境保全型農業の推進による緑肥の積極的な作付けなどによる。

農業生産法人の事例

干拓地に入植した2つの農業生産法人の経営者取材した。

(1) 有限会社松山ファーム

松山ファームは、平成8年に設立し、構成員は4名、父親が社長で63歳、息子が専務で35歳、社員は2名、常雇い20名(男性7名、女性13名)、パート10名、地元的女性(研修生9名)である。干拓地での経営面積は44・5ヘクタール(10区画)、

干拓地以外雲仙市に9ヘクタール(借地)である。作目は、冬レタス44・5ヘクタール、春レタス15ヘクタール、馬鈴薯20ヘクタールとなっている。冬レタスは9月上旬から定植し10月3日出荷する。春レタスは2月3月に定植し4月5日出荷する。春馬鈴薯は1月下旬～2月下旬に植え付け5月上旬～6月下旬に出荷する。他の産地と出荷時期の競合が少ない端境期をねらってレタス栽培を中心とした経営を行っている。低温冷蔵庫(1000平方メートル)を保有しており、真空予冷をしたうえで出荷している。農業機械はトラクター(150ps)、ブームスプレーヤー、ポテトハーベスターなどを保有している。

松山ファームはもとも雲仙市で松山青果産地仲買)を営んでいたが自ら農業の規模拡大を図りたいと考えていた。干拓地は農地が集団化しているので効率がよいうえ、松山青果の取引先の注文にも応じられるため、良品質のレタスを作ることができれば営業の拡大ができるものと考えて、干拓地への入植を希望したのである。

レタスの販売先は市場への出荷が中心であり、東京40%、中京30%、京阪神10%、九州10%となっている。とくに、中京地区の名古屋中央卸売市場の比率が高いのは、専務が学生時代に名古屋の中央市場でアルバイトをしていた関係で、市場との付き合いが続いているからである。したがって、市場の評価の高いレタスを生産することができれば販路の拡大が望まれるので、できれば現在の規模をさらに拡大したい意向を持っている。

後継者としての意気込みも強く、長期的な経営戦略に基づいた安定的な営農が期待される。

(2) 農事組合法人アグリポート森山
アグリポート森山は、平成19年8月に4戸の農家(水頭貞次代表理事・59歳)によって設立されたミニトマトを生産する農事組合法人である。4農家の妻4名、息子2名が常雇いとして参加している。家族以外の常雇

いは4名、したがって常雇は全部で10名となる。臨時雇用は2名である。賃金は常雇いも臨時雇用も1時間当たり650～800円としており、経験年数により加算している。4戸は近所同士であり、施設園芸による規模拡大を希望していたところに干拓地の公募があったため、応募したのである。4戸はそれぞれに水田を中心とした個別経営

干拓地でのレタスは1年目の作柄からみて葉が厚く甘みが強いので食感(歯切れ)が評価され、干拓地の土壌条件がレタスに適合しているとみているようである。さらに、栽培履歴を記帳し、トレーサビリティを行い、民間の検査機関の保証書をつけているので市場の信用を高めているといえる。

松山ファームでは周辺の畜産農家から鶏ふんや牛ふんといった農家からしいたけの菌床の供給をうけ、堆肥を自家生産している。干拓地には、10アル当たり2トンの堆肥を施用するとともに、緑肥作物(ソルゴー)を栽培して、ほ場にすきこみ、地力の増進を図っている。親子を中心とした家族法人経営であり、専務の年齢も若く、



アグリポート森山が栽培するミニトマト

代表者の水頭氏は、高校卒業後に当地で農業+漁業(ノリ養殖)を行ってきたが、干拓が始まったために漁業をやめてイチゴ専門の栽培に切り替え、更にハウスによる規模拡大を考えていた。そして、4戸で相談して干拓地での規模拡大を図った。ハウスの建設費は1・8億円がかかったが、国の強い農業づくり交付金事業補助金48%、県の補



農事組合法人アグリサポート森山の水頭貞次代表理事

助金9%、市の補助金9%、残りは農業近代化資金を利用した。画していた7500万円を上回った。販売先は農協が65%、仲買人35%の比率であったが、今後は宣伝も兼ねて直販を伸ばしていくことを考えているようである。干拓地のミニトマトは糖度が高く、ミネラル、ビタミンCの含有量も多く、食味や品質に優れたものであるところから市場の評価も高く、販売の一層の拡大が期待がされているという。そのため、販売額を1・5億円くらいにしたい意向のようである。更に、農地に余裕があればハウスを増設して規模拡大を図りたいとの抱負である。また、ミニトマトの苗は農協から1本150円で仕入れているが、今後は自家育苗に切り替えることを検討している。

水頭さんは経営の成果を上げるためには、構成員がそれぞれに向上心をもって、実績を上げるために工夫することが重要であり、月給を出来高払いシステムにしたいと考えているようである。構成員4名ともまだ50代であり、子息2人も参加してい

るので後継者の育成も兼ねることとなり、長期的な営農の発展が期待される。

 干拓地営農の課題と展望

諫早湾干拓地は41経営体の入植によって新たな段階を迎えている。2年目を迎えた営農は事例にみるように、期待のできる成果を上げたケースもみられる。

入植した営農者は、各々の経営確立に向けて既に総額40億円を超える多額の投資を行い、大型農業機械の導入、集出荷・貯蔵施設やハウスの設置などの生産・流通施設を整備している。それだけに、営農者はいかなる困難も切り開いていかなければならないのである。

また、法人、家族経営ともに営農規模が大きいことから、労働の受容力も大きく、繁忙期には干拓地全体で1日700人も人が働いている（家族労働力も含む）。中には、1経営体で40〜50人を雇用している法人もある。このことは、干拓地農業が地域の雇用創出の場となっている表れでもある。

さらに、生産力が高く、ミネ

ラル分が多い干拓地土壌から生産される野菜などは市場関係者から「うまい、食味が良い」と高い評価を得ている。加えて、経営体の規模が大きく、取扱量がまとまりやすいので、加工・業務用需要の引き合いも多い。このため、営農者が連携して、こうした需要に対応していくという動きも出ている。

しかし、一方では潮受堤防をめぐる裁判は依然として続けられている。潮受堤防を開放すれば、高潮洪水など防災機能が失われるとともに、農業用水が利用できなくなるほか、地下からの塩分上昇や潮風による災害が発生する恐れがあり、干拓地および後背地の営農や人々の生活に支障をきたすことも懸念される。また、潮受堤防の開放によって有明海の潮流や潮汐に影響する恐れもあるといわれており、潮受堤防の専門問題は慎重に解決の道を探らなければならない。

干拓地に入植した41経営体の営農が安定的に行われるとともに、有明海の生態系や漁業への影響が最小限にとどまるような解決策を考えていかなければならないであろう。

編集後記

自宅近くの雑木林を老犬と歩くのが週末の日課となっている。櫻クヌギや楓カエデ（類）の紅葉もほぼ終わりなのか、雨上がりのためか、落葉がはじまっていた。それを踏みながら歩くのは何とも心地よい。

薄日しか差さない木陰のそんな中に、赤い実を垂れた一本の万両マンリョウ（？）を見つけた。何年か前に野鳥の糞に混じった種が自然に生えて実を付けたのだろうか、しばし見とれた。

この万両は、百両唐揚げカラタチ（？）と、十両 藪柑子ヤブコシロ（？）と同じヤブコシロ科であるらしい。似たような赤い実を付けるようだ。他に「セリウウ」（千両）、「セリウウ科」の「アトウチ」の一面「メカネ科」という似たものもあり、千両、万両、あり通し……として正月の縁起もの「だく」として辞典が教えてくれた。散歩の帰り道は、秋野菜が植わっている畑を見ながら歩くことになっている。途中、庭先の、甘柿が富有を収穫している主人いわく、「柿の作柄は1年おきて今年は豊作だ」と、かこの中から甘さつなところを一つ投げてくれた。その夜、テレビを見ながらその柿を食べていたら、坂の上の雲の予告が流れていた。柿食えば鐘が鳴るなり法隆寺。子規を思い、ほくそ笑んだ。

発行が大幅に遅れてしまい申し訳ありませんでした。読者と関係者におわびします。

(K)